

石川県小児科医会会報 創立50周年記念誌

令和7年度

第20号



目 次

《巻頭言》	「上等新お節介心を持つ地域力」	
	金沢市福祉健康局 金沢市保健所 所長 越田 理恵 先生	1
《役員会・総会および事業報告》		
令和 7 年度 石川県小児科医会春季例会	令和 7 年 6 月 1 日（日） ホテル金沢 4 階エメラルド	
特別講演		
拡大新生児マスキングの総論	金沢大学 小児科 主任教授 和田 泰三 先生	3
石川県における拡大 NBS 要精査の状況～開始から 3 年のまとめと課題～	金沢大学 小児科 岡島 道子 先生	4
拡大 NBS で発見された重症型ムコ多糖症Ⅱ型	金沢医科大学 小児科 伊藤 順庸 先生	6
石川県小児科医会創立 50 周年記念式典・祝賀会、令和 7 年度秋季例会	令和 7 年 11 月 16 日（日） ホテル金沢 2 階ダイヤモンド	
次第		7
石川県小児科医会会長挨拶	久保 実 先生	8
記念式典・講演会		
50 周年を迎えた石川県小児科医会の歩み	斉藤小児科医院 斉藤 建二 先生	10
Well-being の地域小児医療－小児科医会の課題と将来 2025 年－	日本小児科医会会長 伊藤 隆一 先生	12
秋季例会 特別講演		
帰してはいけない外来患者	東京都立小児総合医療センター 岸部 峻 先生	17
日本小児科医会「子どもの心相談医」カウンセリング実習（金沢） 開催報告		
ふじさわ眼科小児科クリニック 藤澤 裕子 先生		20
《令和 7 年度、分科会活動報告》		
能登小児科医会 金沢市小児科医会 加南小児科医会		21

《寄稿》

食物アレルギーのミカタ

城北病院小児科 武石 大輔 先生・・・・・・ 25

祖父と小児科と感染症

松田小児科・消化器 IBD クリニック 武田 万里子 先生・・・・・・ 27

《令和 7 年度 石川県小児科医会 会計収支決算書、監査報告》・・・・・・ 28

《令和 8 年度 石川県小児科医会 会計収支予算案》・・・・・・ 30

《令和 8 年度 石川県小児科医会 事業計画案》・・・・・・ 31

《石川県小児科医会 会則》・・・・・・ 36

《令和 8 年度 石川県小児科医会 役員分掌》・・・・・・ 38

《編集後記》加畑 寿明 先生・・・・・・ 41

石川県小児科医会変更届・・・・・・ 43

《表紙と裏表紙の写真》

表紙

石川県小児科医会創立 50 周年記念式典にご参列いただいた皆様による記念集合写真です。
式典では、ご来賓挨拶、慶祝紹介に続き、斉藤建二先生より「50 周年を迎えた石川県小児科医会の歩み」、また日本小児科医会 伊藤隆一会長には「Well-being の地域小児医療ー小児科医会の課題と将来 2025 年ー」と題してご講演いただきました。両講演を通して、半世紀にわたる当会の歴史を振り返るとともに、今後の地域小児医療の課題や小児科医会が担うべき役割について考える有意義な機会となりました。

裏表紙 仕舞「安宅」 横井 透 先生

能「安宅」は義経が弁慶の勸進帳を読み上げる機転で安宅の関を通るところが見せ場ですが、仕舞「安宅」はその最後の方です。

詞章（じのふみ）の「鳴るは瀧の水」ですが、鳴和の滝を掛けているようです。困難を乗り越えて行くという意味ではめでたい曲ですし、ご当地の曲であるので選ばれました。地謡（じうたい）は、シテ方宝生流で重要無形文化財保持者 島村明宏先生とご子息の島村天様です。

《巻頭言》 「上等なお節介心を持つ地域力」

金沢市福祉健康局 金沢市保健所

越田 理恵

第 72 回日本小児保健協会学術集会の開催にあたりましては、石川県小児科医会をはじめ、会員の先生方から多大なご支援とご協力を賜り、改めて心より御礼申し上げます。お陰様で 3 日間の会期中は天候にも恵まれ、全国から金沢へお越しくくださった多くの参加者の皆様からは、金沢駅直結という石川県立音楽堂のアクセスの良さも含め、ご好評をいただきました。

特段の取り柄もない一介の保健所長が、このような歴史ある全国学会を主催することには少なからず躊躇いもありましたが、多くの先生方からの温かい応援と後ろ盾は、何よりも心強いものでした。本学術集会のテーマは、文化都市・金沢において、多くの方々に支えられながら 3 人の子育てを経験し、小児科勤務医や小児保健事業に関わってきた私自身の様々な想いと感謝を込め、“こどもたちに夢と希望を贈る「子育て文化」の創造”といたしました。

わが街のオーケストラであるアンサンブル金沢のマエストロ・広上淳一氏による特別講演をはじめ、妹様と奥様をがんで見送られた後、塩を用いた独自のインスタレーションを確立された美術家・山本基氏をお招きしました。山本氏には、ご自身の作品紹介とともに、そこに込められた鎮魂と希望のメッセージをご講演いただき、いずれも「子育て文化」の根底に通じる深い示唆をいただきました。

また、学会ポスターの原画作者である特別支援高等学校在籍の輪島貫太君のご両親をお迎えした市民公開講座では、貫太君の育ちを温かい目線で見守り、ブレることなく、しなやかに寄り添ってこられた歩みが語られました。数々の葛藤を乗り越え、個々の「光るもの」を見出して支えるという、子育ての原点を垣間見る貴重な機会となりました。一方、私が医療センター（国立病院）勤務時代に主治医を務めていた子どもたちのお父様方が代表を務める、医療的ケア児・重症心身障害児の家族会および関係者の皆様による市民公開シンポジウムでは、医療だけでは割り切れない、乗り越えない、温かい視点の必要性を改めて痛感いたしました。「いしかわ医療的ケア児支援センター」（愛称：このこの）の写真展をご覧になった某大学小児科教授からは、「石川県は家族愛、地域愛がしっかりしている」との感銘深いご感想をいただいたことも印象に残っております。

さらに、ご来場の皆様の心に何か一つでも残るような、敷居の低い（親しみやすい）取り組みとして、これまでにご縁のあった様々な分野の方々にご協力いただき、市民参加型のワークショップを企画しました。輪島市で採取した草花で染めた布を紡いで造るお花畑や、山本基氏のご指導による能登の塩を封じ込めたアクセサリーの制作など、地域のエッセンスを取り入れた試みとなりました。

私にとって、3年以上にわたる準備期間は、模索と試行錯誤の連続であり、時に不安や焦燥に駆られる日々でもありました。しかし、石川県内で子どもに関わる多様な活動を展開されている方々との絆が復活し、また新たな出会いに恵まれたことは、私自身にとって大きな糧となりました。

臨床現場での診察・診断・治療は、ある程度小児科医の裁量で進めることができますし、自治体の母子保健事業も、行政職員が工夫を凝らし、必要性を訴えて予算を確保しながら取り組んできました。しかし、それだけでは埋めることのできない「隙間」を支えてくださっているのが、実は「上等なお節介心を持つ地域の方々」です。声を上げることもできずにひっそりと生活している親子に寄り添ってその心を開かせ、見返りを求めることなく仲間を募って組織化し、持続可能な支援体制へと繋げていらっしゃる地域の心ある皆様。そして何よりも、支える側の皆様が楽しそうに生き活きと活動されている姿そのものが、非常に魅力的で素敵でした。

児童福祉や母子保健事業、学校教育などの公的システムには、制度の枠組みゆえに、個別かつ丁寧な対応に限界が生じる側面があります。その隙間を埋めるような、さりげない心配りによって、多くの子どもや家庭が救われているのは厳然たる事実です。今般の学術集会の企画段階において、公的システムの至らない部分を補ってくださるパートナーとして、多くの「上等なお節介心を持つ地域の方々」との出会いを得られたことは、本集会最大の収穫であったと感じています。今後とも、これらの地域の宝物たる「上等なお節介心」を持って子どもたちに関わっていらっしゃる皆様とともに、手を取り合って地域の子育てを支えてまいりたいと思います。

《役員会・総会および事業報告》

令和7年度 石川県小児科医会春季例会 令和7年6月1日

ホテル金沢4階エメラルド

特別講演 拡大新生児マススクリーニングの総論

金沢大学小児科 和田 泰三

石川県では、石川県小児医療ネットワーク事業協議会拡大新生児マススクリーニング（NBS）部会が中心となり、石川県や県内産婦人科、東海マススクリーニング協会の協力を得て、拡大NBSの体制整備を進めてきた。令和4年度からライソゾーム病（ポンペ病、ファブリー病、ムコ多糖症Ⅰ型・Ⅱ型）、副腎白質ジストロフィー、原発性免疫不全症（重症複合免疫不全症、B細胞欠損症）、脊髄性筋萎縮症を対象に事業が開始された。令和5年度からは、ゴーシェ病とADA欠損症が対象疾患に加わった。令和7年度からはこども家庭庁の主導による実証事業として、原発性免疫不全症と脊髄性筋萎縮症の2疾患について公費補助が開始された。現在、分娩を扱う全ての県内施設（32施設）において拡大NBSは検査可能である。最近の受検率は80%前後で推移している。スクリーニング陽性者に対しては、金沢大学附属病院小児科が精密検査医療機関として全ての症例に対応し、各医療圏の病院小児科と診療連携をとる体制となっている。東海マススクリーニング協会では、岐阜県、石川県、三重県、福井県、富山県、奈良県の拡大NBSを取りまとめており、医療従事者向けにセミナーを毎年開催し、拡大NBSの継続、発展に努めている。

石川県では令和7年3月までに約1.1万件の拡大NBS検査が行われた。脊髄性筋萎縮症の精査対象となった症例はこれまでに認められていない。原発性免疫不全症は現在550以上の疾患が知られているが、拡大NBSの検査対象になるのは、重症複合免疫不全症とB細胞欠損症である。それぞれ、TREC（T-cell receptor excision circles）、KREC（Kappa-deleting recombination excision circles）にて検査が行われる。TRECは重症複合免疫不全症以外のT細胞欠損症や早産低出生体重児、21トリソミーなどでも低値となることが知られている。実際、これまで県内で重症複合免疫不全症は見つかっていないが、複数例の早産児などでTREC低値が検出されている。このような早産児ではいずれも加齢とともにTREC値は改善する。一方、KREC検査によりB細胞欠損症が県内で1例診断されている。免疫グロブリン補充療法がすぐに開始され、その後、安定した経過を示している。

全国的に普及しつつある拡大NBSであるが、受検率の向上、フォローアップ体制、家族解析や遺伝カウンセリング体制など、さまざまな課題が指摘されている。早期発見、早期治療の機会を逃さないように、今後もより一層の体制整備が望まれている。

特別講演 石川県における拡大NBS 要精査の状況～開始から3年のまとめと課題～

金沢大学小児科 岡島 道子

石川県では、令和4(2022)年春より東海マススクリーニング推進協会(TOMAS)と連携し、対象7疾患(原発性免疫不全症・ライソゾーム病(ボンペ病・ムコ多糖症1型・ムコ多糖症2型・ファブリー病)・脊髄性筋萎縮症・副腎白質ジストロフィー)の拡大マススクリーニングがオプション(有償)検査として開始された。県内の体制構築にあたり、県小児科・産科医会、行政、地域中核病院小児科が連携し、石川県小児医療ネットワーク事業協議会が事務局となり、県内2つの大学病院が検査陽性者の精密診断にあたっている(※2025年度より金沢大学附属病院が一括して精査担当)。令和6(2024)年度より、アデノシンデアミナーゼ欠損症とゴーシェ病の2疾患が対象に追加された。検査導入から3年を経た2025年3月末において、検査同意率は8割を超え、総検査数12,789検体に対し、31例(0.24%)が要精査対象となった。うち重症ムコ多糖症2型とB細胞欠損症の2症例が確定診断に至り早期に治療を導入することができた。令和7(2025)年度から当県もこども家庭庁の実証事業に加わった。原発性免疫不全症と脊髄性筋萎縮症は公費による検査扱いとなるため、拡大検査の費用減額につながり、更なる受検率の向上が期待される。精密検査にあたっては、発症前遺伝子診断となり、実際に検出されるバリエーションは、偽欠損やVUS(病的意義不明のバリエーション)も現状多く、解釈や病型予測が難しい場合がある。知見の蓄積と専門家や多領域連携の上での判定、フォローアップの妥当性の担保が重要となる。里帰り分娩例や、確定診断例での家系調査への対応も要する。拡大マススクリーニング検査は稀少な先天遺伝性疾患の早期診断治療において有用と考えられる。一方、遺伝カウンセリング体制を整備し受検者家族に対するきめ細かな説明と対応が欠かせない。

石川県での新生児スクリーニング検査数と拡大マス受検率の推移



石川県での拡大マス検査要精査例 3年間のまとめ

2022年4月～2025年3月 拡大検査総検体数 12,789件

	2022年度		2023年度		2024年度		合計	
	精査例	診断例	精査例	診断例	精査例	診断例	精査例	診断例
原発性免疫不全症	0		2		1	1	3	1
ADA欠損症			0		0		0	
Gaucher病			0		0		0	
Fabry病	0		3	3(遅発3)	3	3(遅発2)	6	6
Pompe病	4		3		2		9	
MPS1型	0		0		0		0	
MPS2型	1	1 (VUS1)	4	1	2		7	2
副腎白質ジストロフィー	2	1	2	2(VUS1)	2	2(VUS1)	6	5
脊髄性筋萎縮症	0		0		0		0	
合計	7		14		10		31	14

(0.24%)

特別講演 拡大 NBS で発見された重症ムコ多糖症 II 型

金沢医科大学小児科 伊藤 順庸

ムコ多糖症 II 型は X 連鎖性潜性遺伝性疾患で、ライソゾームのイズロン酸-2-スルファターゼ活性の低下によりデルマタン硫酸、ヘパラン硫酸といったグリコサミノグリカンが代謝できずに蓄積する疾患である。骨、関節、皮膚、肝脾腫、中枢神経、呼吸器、さらに循環器など多数の臓器において障害が発生し、一般的には中枢神経障害の有無により軽症型と重症型に分類される。無治療の重症型は、心不全や呼吸不全により 10 歳第で死亡するとされる予後不良な疾患である。

近年、マスキングスクリーニングの対象疾患拡大により、一部の地域ではムコ多糖症 II 型の早期診断が可能となった。今回、我々は拡大新生児マスキングスクリーニングを契機にムコ多糖症 II 型重症型と診断され、多分野の医師による集学的医療により早期治療が可能であった症例を経験したので報告する。

症例は日齢 26、男児。日齢 4、13 でマスキングスクリーニングにおいて IDS 酵素活性がともに 0 であったことから精査対象となり、紹介受診となった。身体所見では、広範な異所性蒙古斑と臍ヘルニアを認めた。精査においてムコ多糖症 II 型の 1.責任遺伝子である IDS 遺伝子にナンセンスバリエーションを確認、2.白血球中イズロン酸-2-スルファターゼ活性の低下、3.尿中ウロン酸の高値を認め、既報とあわせてムコ多糖症 II 型重症型と診断した。眼科、耳鼻科、および整形外科各科の診察を受けつつ、IVH ポートと脳室内リザーバを設置し、日齢 88 に静脈内酵素補充療法を、日齢 101 に脳室内酵素補充療法を開始した。さらに月齢 8 に臍帯血による造血幹細胞移植を行った。その後に静脈内酵素補充療法は中止したが、脳室内酵素補充療法は継続している。現在までにムコ多糖症 II 型としての新規症状は認めず、精神運動発達についても健常児同様になっている。また尿中ウロン酸も正常上限程度までの低下を維持している。

ムコ多糖症 II 型は重症であるほど早期治療による予後改善が期待されているが、ごく早期から開始された酵素補充療法や造血幹細胞移植に対する長期予後については未知の部分が多い。今後も慎重な経過観察と、症例の蓄積による知見が必要である。また重症ムコ多糖症 II 型の治療には小児科医はもちろん眼科、耳鼻科、整形外科、小児外科、脳外科、遺伝専門医、および移植専門医など多分野にわたるエキスパートによる集学的医療が不可欠である。

石川県小児科医会創立50周年記念式

日時：令和7年11月16日（日）14:00～15:10

場所：ホテル金沢2階ダイヤモンド

— 次 第 —

- | | | | |
|---|--|-----------|-------------|
| 1 | 開会
仕舞 「安宅」 | 横井 透 先生 | 14:00～ |
| 2 | 開会挨拶 | 久保 実 会長 | 14:10～ |
| 3 | 来賓挨拶
・日本小児科医会 伊藤 隆一 会長
・石川県医師会 安田 健二 会長
・来賓紹介 金沢大学小児科 和田 泰三 教授
金沢医科大学小児科 伊川 泰広 教授
石川県小児保健協会 谷内江 昭宏 会長 | | 14:15～ |
| 4 | 慶祝紹介
叙勲（瑞宝双光章） 伊藤医院 伊藤 茂 先生
文部科学大臣表彰 わたなべ小児科医院 渡部 礼二 先生 | | |
| 5 | 50周年を迎えた石川県小児科医会の歩み
斉藤小児科医院 斉藤 建二 先生 | | 14:25～ |
| 6 | 講演 「Well-beingの地域小児科医療-小児科医会の課題と将来2025年-」
日本小児科医会 伊藤 隆一 会長 | | 14:40～ |
| 7 | 閉会挨拶 | 藤澤 裕子 副会長 | 15:10 |
| ☆ | 写真撮影 | | 15:15～15:30 |

式辞

石川県小児科医会創立 50 周年記念式を開催するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、ご多忙中にもかかわらず、創立記念式にご臨席を賜りました、伊藤隆一日本小児科医会会長、安田健二石川県医師会会長をはじめ、ご来賓の皆様に心より御礼を申し上げます。

実は、石川県小児科医会は今年で 53 周年を迎えています。昨年、東京で日本小児科医会の 40 周年記念式が開催され出席してまいりました。その時、石川県小児科医会は何周年になるのかと確認してみましたところ、会則には昭和 47（1972）年 5 月 5 日設立とありました。コロナ禍や能登半島地震などでとても記念式どころではなかったのですが、全く失念しておりましたこと、お詫び申し上げます。創立 50 周年記念式を行うかどうか、役員の皆様にお諮りしたところ、50 年は一つの大きな節目でもありますので、是非開催したほうが良いとのことで本日開催に至った次第であります。

会員の皆様には、日頃の小児科診療や予防接種、乳幼児健診、学校医及び保育所幼稚園嘱託医としての活動、夜間休日急病診療、また病院勤務の先生方には入院診療など、小児の保健医療および健全な育成のため、日夜ご尽力されていることに、深甚なる敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。

石川県小児科医会の歩みにつきましては、この後、斉藤建二元会長より詳しいお話がありますが、近年の当小児科医会の活動から 3 つ挙げさせていただきます。一つ目は夜間休日急病診療への貢献であります。石川中央では在宅当番医の他に金沢広域急病診療所への出向、南加賀でも急病診療所への出向、能登中部および北部での当番医などに対応していただいています。少子化にもかかわらず、核家族化による家庭看護力の低下で夜間休日における診療体制の確保の重要性が増しています。一方で小児科医も開業医の減少や高齢化と共に、医師の確保が困難になってきており、勤務医の皆様のご協力が不可欠です。今後も小児科医会を中心に急病診療の確保に努めていきたいと存じます。二つ目は、小児科有志の団体キンダーズから引き継ぎました、感染症情報登録事業であります。インフルエンザ登録に始まり、2019-20 年のシーズンから他の感染症も対象として登録していただいています。20-21 年のシーズンは新型コロナ感染症の流行により報告は激減しましたが、昨年のシーズンではインフルエンザやコロナ感染症が減少した一方、手足口病、伝染性紅斑、百日咳、マイコプラズマ感染症の増加が報告されました。現在、県内全域をほぼカバーするように 20 数名の先生方が登録事業に参画されていますが、より正確な報告となりますよう、多くの先生方に参加していただきたいと思います。3 つ目は、これもキンダーズから引き継いだ勉強会「月一会」であります。12 月を除き毎月第 3 木曜日に Web 開催しています。日ごろの診療での症例報告や問題点などを検討しています。学会に比べてより身近な日常診療が話題となって意見交換が行われ、診療に役立っているように見受けられます。

近年では、重症の感染症が減る一方、心の問題を抱える子供が多くなり、小児科医の果たす役割も変化してきています。かかりつけ医だけでなく、病院の診療においても、よりきめ細やかな対応が求められています。皆様の益々のご研鑽をお願い致します。

最後に、医会の皆様のご健勝とご多幸、および小児科医会の益々の発展を祈念し、式辞といたします。

令和7年11月16日
石川県小児科医会会長
久保 実

50周年を迎えた石川県小児科医会の歩み

石川県小児科医会顧問 齊藤 建二

石川県小児科医会は昭和 47 年 1972 年 5 月 5 日子どもの日に兼松兼三先生を会長とし設立されました。一方日本小児科医会は全国の小児科医会連絡会で機運が高まり、石川県小児科医会設立より 12 年後の昭和 59 年に日本小児科医会が設立されましたが、兼松先生は日本医師会理事他の立場から厚労省に働きかけられ平成 12 年社団法人日本小児科医会となり、その後一般社団、公益社団法人となり現在に至っています。

さて石川県小児科医会は、会長 1 名、理事若干名、会計 1 名、監査 1 名で構成され、春季例会、秋季例会として年 2 回活動していました。その後も日常診療のために講演が聞けることも大変有意義でしたが、今のようなネット等の情報交換も無い中で、日常の診療状況や苦労について先輩、同輩、後輩が膝をつき合わせて懇談することが何よりの喜びで意義ある貴重なひとときでした。

医会に関係のある会がいくつかあります。木金会（金沢小児臨床懇話会）が昭和 52 年より千取寿しにて隔月で開催されるようになり、50 年近く経た現在も続いています。当時は医会について懇談したり、いろいろ計画したりもしていました。また昭和 55 年には月一会が発足し当初は若手の勤務医が集まりそのうち開業され、いち早く ML を整備され、はしかゼロ作戦や感染症調査研究など大きな成果をあげました。一方能登、加南、金沢市など各地方に小児科医会が活動されてもいます。兼松先生には 34 年間務められた後は、浅井恭一先生が平成 18 年より会長に就任され、学校保健・総務・研修など分掌委員会を設けました。平成 18 年には会報第 1 号が発刊され、現在 19 号にまでに至り、当医会の毎年の活動内容が掲載されています。

小児救急電話相談事業が全国的に持ち上がり当石川県小児科医会でも、発熱など急な患者さんの訴えに少しでも役立てればと電話で即座に対応してあげられる利点も大きく、また多忙な小児科医の時間外負担が少しでも軽くなればと、平成 16 年に臨時総会で了承され 10 年間小児科医の協力が続きました。

医会はその後も講師をお呼びして順調に春と秋に例会を続けていました。また金沢で開催された中央の会として平成 25 年生涯研修セミナーを主催し、全国から多くの小児科医が参加され成功裡に終了しました。

医会には当時会員数 78 名。8 年間の浅井会長から平成 27 年齊藤建二に代わりました。会長がほとんど総て決めて実行するという形をそのまま踏襲しましたが、副会長の必要性を痛感し次回からの組織に副会長を設けるよう進言しました。また中部小児科医会連絡協議会は金沢で開催された日本小児科学会中部地方会に併せて開催とのことで準備を整え平成 30 年に無事開催できました。

そして例会はすべて金沢都ホテルで開催されていましたが、都ホテルが壊されてからは

ホテル金沢で開催されています。

小児の時間外急病対策について各地区で休日当番医制度がありますが、南加賀急病センターも活動中で、中央地区においては平成 28 年には金沢広域急病センターの設立委員会が何回か開催され、平成 30 年に金沢市駅西福祉保健センターに開設され近隣の多くの小児科医が交代で務め現在に至っています。

さらに子どもの心研修会が多数回金沢市で開催を受け持っています。一方役員が中央の東京や中部に出務されることも毎年何回かあり、日本小児科医会 30 周年記念にも参加し、また医師会代表として自見はなこ氏が参議院議員に立候補され、氏が小児科医でしたので東京での日本小児科医会主催の決起大会などにも東京へ行きました。

また事務局は平成 18 年から白山ののいち医師会館に、平成 30 年からは石川県医師会館に移転し現在に至っています。

平成 29 年には渡部礼二先生が会長に、月一勉強会の熱心な研修活動も顕著で、他の診療科の模範になるようです。令和 2 年度より久保実先生が会長になられ、指導的手腕から医会も一層しっかりした組織となって活発に活動されています。

石川県小児科医会が半世紀を超え一層の発展に向けて、今後とも春季例会・秋季例会・月一勉強会に参加し、さらに一層会員の懇親を深められ、将来を担う子どもたちの健全な発育発達を担う誇りを持ちながら診療に医会活動にと期待したいと思います。



石川県小児科医会の歩み・齊藤健二先生

Well-being の地域小児医療

-小児科医会の課題と将来 2025 年-

公益法人 日本小児科医会会長 伊藤 隆一

石川県小児科医会創立 50 周年おめでとうございます。本日はお招きいただきありがとうございます。昨年 1 月能登半島地震、そして追い打ちをかけるような同年 9 月の豪雨と、たび重なる災害に心から深くお見舞い申し上げます。

本日の演題名は「Well-being の地域小児医療 小児科医会の課題と将来」です。

地域小児医療グランドデザインを考える際、医療計画・保健計画、少子・小母化、子どもたちの問題・課題、医師数・医療費の動向が基になります。

本邦の人口推移は国の予想より早く進んでいます。2024 年には出生数約 68 万 6 千人（出生率 1.15）、死亡数 160 万 5 千人で自然増減 92 万人減少となり県単位で消滅していることになります。その中で 2024 年日本生まれの外国人は 22,878 人で新生児の 3 %を占めます。自治体によっては 20%近くとなっている地域もあります。

コロナ禍の影響もありますが「2023 年全国未婚男女 18～29 歳 400 人インターネット調査」では、子どもを欲しくないと考える若者が男 59%、女 51%となっています。収入など経済的問題、物価高、自身のキャリアへの不安や働き方を心配しています。1990 年の 1.57 ショックから少子化対策が打ち出され続けてきましたがその効果は見えません。

日本小児科医会が唱えてきた成育基本法が 2018 年 12 月 8 日に成立し、こども政策の司令塔として「こどもまんなか社会」の実現を目指すこども家庭庁が 2023 年 4 月 1 日に設立されました。

小児科医会も公益法人となり国の会議に出席する機会が増えました。こどもたちにかわり advocate する場面が多くなりました。

遅滞していた予防接種の種類の増加、啓発による予防医学、気管支喘息など治療法の進歩などにより疾病構造も変化しました。コロナパンデミック後、救急の電話相談事業の普及利用も加え、特に共働き保護者の増加により少しでも長い処方日数を希望するなど受診行動が変化しました。

社会保障費の枠の中の公定価格である小児保険診療は今後ますます厳しくなります。

日頃から小児科医は校医、診療所外の予防接種、休日夜間急患センター診療業務、病児保育・産後ケア事業、地域保健業務への参加など診療所外の業務をこなしています。今まで診療報酬で補っていたこれらの診療外の社会的評価を正当に与える必要があります。その大きなものの一つが健診事業です。1 ヶ月健診、5 歳児健診が予算化され各地域で始まりました。その実際は地域のインフラに合わせてすすめて取り組んでいかなければなりません。アメリカはじめ諸外国では数多くの健診機会が設けられています。米国では 21 歳までに 30 回の健診回数があります。子どもたちの諸課題（貧困、虐待、いじめ、不登校、自殺、ひとり親、神経発達症や障がい、こどもの在宅医療、医ケアー児、AYA 世代含む小児がん、トランジション、ヤングケアラーなど）を解決するにはワンストップで診

れる我々小児科医が少なくとも思春期まで Bio-Psycho-Social な approach、assessment でかかわっていかなければなりません。

日本は現在、本邦より少子化の進む韓国小児科医会のような小児医療の崩壊には至っていません。そして小児科希望者は現在のところ減少していません。しかし小児科医の年齢分布を見ますと高齢化が進んでいます。高次小児医療は集約化の方向に進んでいきます。地方の人口減少の加速化や医師・看護師不足、高価な医療器具など医療資源の負担など致し方ない方向に向いています。

地域小児医療は地域の子どものインフラとしてまた地域社会に必要欠くべからず存在です。次世代小児科医にも伝えて行かなければなりません。地域小児科医が多職種と連携して守って行かなければなりません。地域の子どもは地域で守る。

石川県小児科医会の益々のご活躍・発展と共に皆様のご健勝を祈念します。

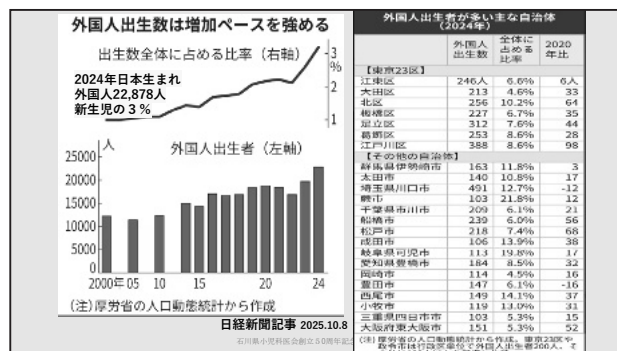
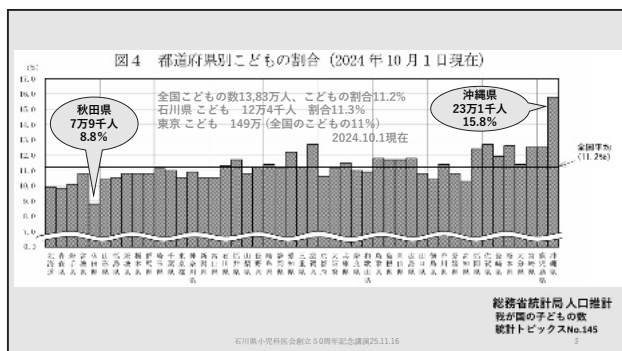
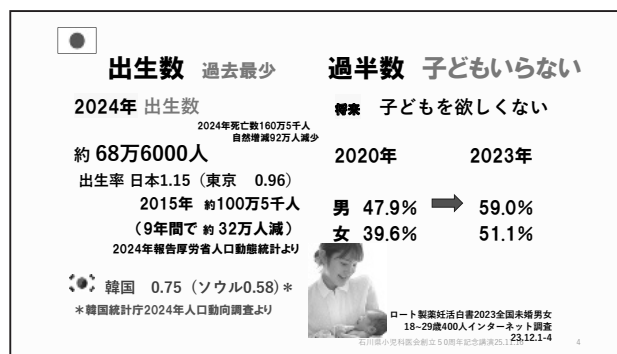
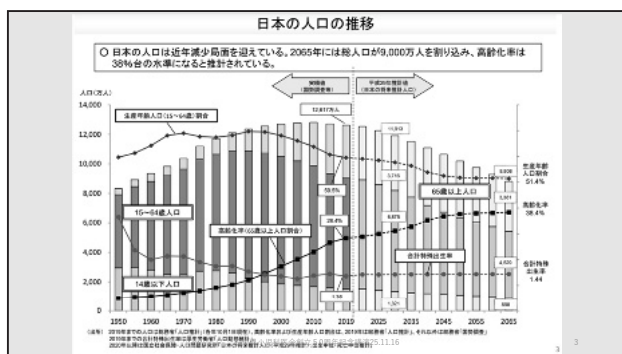
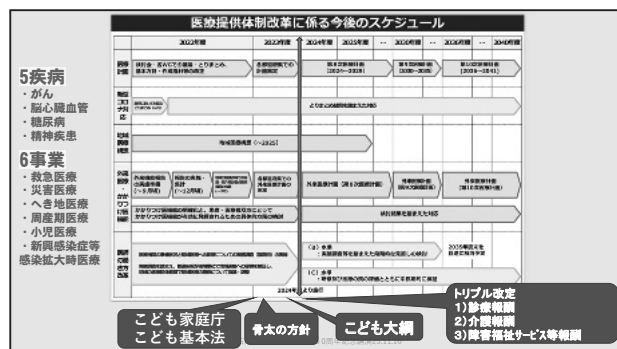
Well-beingの地域小児医療
小児科医会の課題と将来
— 2025年 —

— 2025年 —



2025.11.16
公益法人 日本小児科医会
医法 慈清会 の場医院
伊藤 隆一

石川県小沢地区合創立50周年記念講演25.11.16



各国におけるこどもの健診状況										
	ドイツ	フランス	イタリア	オランダ	ドイツ	ドイツ	ドイツ	ドイツ	ドイツ	ドイツ
保健医療従事者と連携	・保健医療従事者と連携して、子どもの健康状態を把握し、必要に応じて保健医療機関を紹介する。	・保健医療従事者と連携して、子どもの健康状態を把握し、必要に応じて保健医療機関を紹介する。	・保健医療従事者と連携して、子どもの健康状態を把握し、必要に応じて保健医療機関を紹介する。	・保健医療従事者と連携して、子どもの健康状態を把握し、必要に応じて保健医療機関を紹介する。	・保健医療従事者と連携して、子どもの健康状態を把握し、必要に応じて保健医療機関を紹介する。	・保健医療従事者と連携して、子どもの健康状態を把握し、必要に応じて保健医療機関を紹介する。	・保健医療従事者と連携して、子どもの健康状態を把握し、必要に応じて保健医療機関を紹介する。	・保健医療従事者と連携して、子どもの健康状態を把握し、必要に応じて保健医療機関を紹介する。	・保健医療従事者と連携して、子どもの健康状態を把握し、必要に応じて保健医療機関を紹介する。	・保健医療従事者と連携して、子どもの健康状態を把握し、必要に応じて保健医療機関を紹介する。
母子保健等	乳幼児健診	乳幼児健診	乳幼児健診	乳幼児健診	乳幼児健診	乳幼児健診	乳幼児健診	乳幼児健診	乳幼児健診	乳幼児健診
母子生活の状況	母子生活の状況	母子生活の状況	母子生活の状況	母子生活の状況	母子生活の状況	母子生活の状況	母子生活の状況	母子生活の状況	母子生活の状況	母子生活の状況
備考										

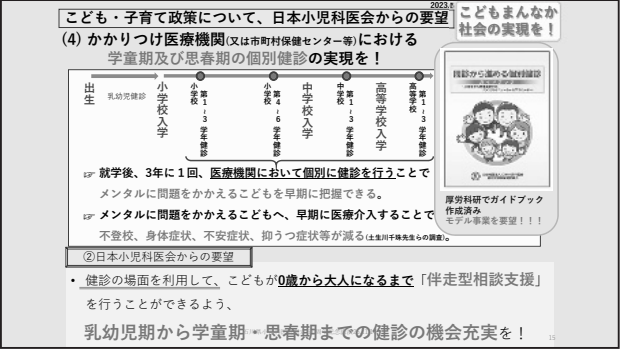
令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業報告より

石川県小児科医会創立50周年記念講演25.11.16

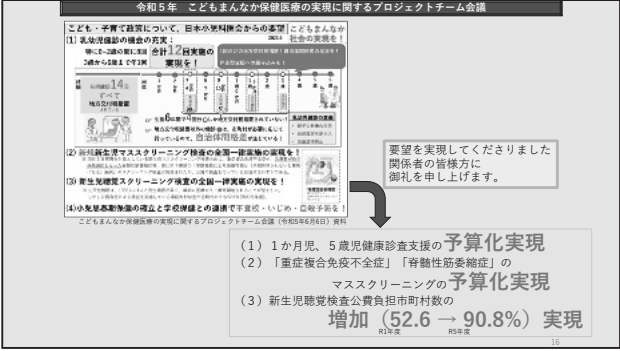
13



14



15



16

これからの地域小児医療・保健

SDGs (2015-30) Well-being (SWGs) (2030-)

Child Well-being (CSWG s)

- 小児科医の行動変容 (疾病指向から健診と患者指向)
- 予防接種や小児生活習慣などの予防をすすめる
- 健診を胎児期から思春期まで one stop で
- 思春期医療 そして Transition まで
- 慢性疾患や障害のこどもの医療継続支援
- 発達障害、心の問題をもつ子どもへの対応
- 地域小児医療、小児救急に参画参加
- 地区医師会に参加、小児医療保健施策の向上に寄与
- 地域、行政と多職種で連携する

石川県小児科医会創立50周年記念講演25.11.16

17

本講演は、小児救急外来においてコモンな主訴の陰に潜む、見逃してはならない重篤な疾患群に対する診断アプローチを、しくじり症例やピットフォールとしての重症例を実際の事例を通して解説した。

演者が所属する東京都立小児総合医療センターは、年間約 4 万人の受診に対応し、重症度を問わず全ての医学的問題の初期対応にあたる小児救急の拠点である。小児救急医療とは、単に時間外の診療に従事するのではなく、軽症から重症まで、内因・外因を問わず全ての患者に適切に初期対応を施すことを指す。見逃しを減らすためには、バイタルサインのチェック、外観（PAT）、そして気道、呼吸、循環、意識（ABCD）の生理学的徴候を迅速かつ正確に評価し、特に Red Flag を見逃さないことが極めて重要である。

ABCD 評価に基づく重症例の教訓

1. A（気道）の異常：病歴の深掘りと時間経過の認識

吸気性喘鳴を呈した 10 ヶ月男児の症例 1 では、初期診断はクループ中等症であった。しかし、病歴を再確認すると、来院直前に高温の冷凍粥を摂取していた事実が判明し、最終的に高温食物摂取による喉頭熱傷と診断され、緊急の気管挿管管理が必要となった。また、顔面・胸部の熱傷で入院した 1 歳 6 ヶ月男児の症例 2 では、受傷から 17 時間後に開口制限や stridor が出現し、遅発性の気道狭窄の危険性が示唆された。気道熱傷は時間差で重症化するリスクが高く、初期の症状だけで安易に安心すべきではない。

2. B（呼吸）の異常：頻呼吸の背景にある代謝・循環の異常の可能性

1 ヶ月男児の症例 4 は、頻呼吸と無呼吸を繰り返し、当初 RSV 感染疑いとして入院観察されたが、最終的にマクロライド耐性百日咳と判明した。本症例は集中治療管理にもかかわらず死亡に至った。低月齢児の百日咳は非典型的で重症化しやすく、近年報告されるマクロライド耐性菌の出現も相まって、早期診断と適切な抗菌薬治療の重要性が増している。また、3 歳男児の症例 5 は、喘息発作として搬送されたが、SABA 吸入に反応せず、重度の糖尿病性ケトアシドーシス（DKA）と診断された。頻呼吸は喘息による換気障害ではなく、代謝性アシドーシスを代償するためのクスマウル呼吸であった。頻呼吸を認める際は、呼吸器疾患のみならず、DKA や心不全など、代謝性・循環器系の異常が潜んでいないか、鑑別を広げることが肝要である。

3. C（循環）の異常：非特異的な症状に潜む心疾患

嘔吐や哺乳不良といった消化器・気道症状で受診した症例 8（特発性僧帽弁索断裂）および症例 9（三心房心）は、初期には肺炎として加療されたが、本質は心不全であった。小児の急性心不全は、頻脈、頻呼吸、肝腫大、活動低下、消化器症状など、非特異的な低心拍出

量や体うっ血の徴候として現れることが多い。圧倒的多数のコモンな症状の中に、これらの重篤な先天性・後天性心疾患が潜んでいる可能性を常に念頭に置き、「疑う」ことから診断への道が開かれる。

4. D（意識）の異常：「泣き止まない乳児」の鑑別

意識障害と並び、小児救急において見逃しが許されない重要な疾患群が「泣き止まない乳児（Crying Infant）」である。泣き止まない乳児の約 6 割は介入を要する疾患であり、約 5% は重篤な疾患が潜んでいる。具体的には、転倒後の鎖骨骨折や大腿骨骨折、靴下によるヘーターニケット、咽頭喉頭異物などを、泣き止まない主訴の中に隠れていた事例として紹介した。痛みの訴えが不明確な乳児の診察では、抱き方や体位による反応の違い、靴下を脱がせての観察など、詳細かつ丁寧な身体診察が、診断に直結する。

見逃し予防のための総括

小児科外来において、コモンな症状の陰に潜むアンコモンな疾患を早期に発見するためには、病歴の深掘り、バイタルサインの徹底、そして ABCD 評価に基づく全身状態の迅速な把握が不可欠である。

また、帰宅後の経過観察に際しては、「4 つの P」を保護者に具体的に伝えることが、究極の処方箋である。

Parameter (項目): 観察すべき具体的なバイタルサイン、痛み、見た目、飲水量。

Period (期間): 分単位あるいは時間単位といった具体的な再診の目安。

Plan (プラン): 異常があった場合の検査や処方の具体的な計画。

Place (場所): 外来、入院、紹介、あるいは自宅での観察といった経過観察の場所。

これらを明確にすることで、見逃しを減らし、安全なホームケアに繋げることが可能となる。



記念式典来賓挨拶 日本小児科医会会長
伊藤隆一 先生



記念式典慶祝紹介 叙勲（瑞宝双光章）
伊藤茂 先生



祝賀会 斉藤健二 先生



祝賀会 メディカルオーケストラ

公益社団法人日本小児科医会 「子どもの心相談医」カウンセリング実習（金沢）の開催のご報告

日時： 2026年1月25日（日）、9時30分～15時20分（9時00分開場）
会場： 一般財団法人石川県女性センター
〒920-0861 石川県金沢市三社町 1-44
受講対象： ①新潟県、富山県、石川県、長野県、福井県、愛知県、岐阜に在勤の相談医
②その他医師（非会員含む）
参加者： 19名
実施報告： 担当 藤澤裕子 石川県小児科医会子育て支援部会

(1)内容

- ・講師 吉村小児科 内海 裕美 先生
- ・プログラム テーマ 「不登校の子どもの心の『声を聴く』から『対応』へ」

9:00	～	:	開場
9:30	～	12:00	(1)自己紹介とこの実習に期待すること、困っていること (2)傾聴ワーク (3)不登校（学校に行かない、いけない）の子が来院したら何を考えるか。 KJ法を用いて考えてみましょう。
12:00	～	13:00	昼食
13:00	～	15:20	(4)日本小児科医会の問診票を活用してみませんか？ ①ケースを用いたロールプレイ ②対策とフォローアップ (5)質疑応答

(2)実習を終えて

開催当日は金沢市では観測史上1位のドカ雪となり、参加申し込み予定の関西方面の先生方からキャンセルの申し込みがありました。そんな中、小児科医会会員の先生方が県外から参加される先生方のため、駐車場の雪かきや会場の設営にご尽力くださいました。

実習は、日本小児科医会三浦義孝副会長先生並びに石川県小児科医会久保実会長のご挨拶で開始。

前半は、不登校のお子さんの心の声を聴くための基本となる傾聴について、長年子どもの心相談医研修会に携わってこられた内海裕美先生に、様々な「聴く技術」や表情・姿などの非言語的コミュニケーションなどを、実際のワークを通して教えていただき、各グループで活発な意見交換をしながら理解を深めることができました。

後半では、不登校の子どものケースを想定したロールプレイを行ないました。

日本小児科医会の問診票を活用し、子どもと保護者の話を丁寧に聴くことを意識しながら「聴く技術」を実習することができました。2026年度も金沢での開催を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。

（文責 世話人 藤澤 裕子）

《令和 7 年度、分科会活動報告》

能登小児科医会

能登小児科医会は、平成 23 年（2011 年）5 月に設立され、会員は羽咋郡市以北の小児科医です。

年 1 回の能登小児科医会学術講演会と年 2 回の能登地区小児科症例検討会を開催していましたが、令和 7 年度も学術講演会、症例検討会ともに開催されませんでした。

症例検討会や講演会を定期に開催することが困難な状況が続いていますが、能登地域で診療する小児科医には情報を共有し病診連携や病病連携を進めるよい機会であり、令和 8 年度に向けて規約改定し、少なくとも年 1 回は総会を開催し会員の親睦と研鑽を図るため再活動予定です。

小児科関連事業については、能登中部小児休日診療協議会や七尾市中能登町学校心臓検診委員会が行われました。

◆ 能登中部小児休日診療協議会

第 1 回能登中部小児休日診療協議会（ZOOM 開催）

日時：令和 7 年 7 月 23 日（水） 19：30

第 2 回能登中部小児休日診療協議会（ZOOM 開催）

日時：令和 7 年 12 月 22 日（月） 19：30

令和 8 年度予定担当回数

公立能登総合病院 22 回

恵寿総合病院 19 回

さはらファミリークリニック 10 回

国立病院機構七尾病院 6 回

とどろき医院 8 回

町立志賀クリニック 8 回

◆ 七尾市中能登町学校心臓検診委員会

書面開催

抽出率 小学校 2.6 %（347 名中 9 名）

中学校 5.2 %（441 名中 23 名）

要管理 小学校 0 %（381 名中 0 名）

中学校 0.9 %（441 名中 4 名）

（中谷 茂和 記）

金沢市小児科医会は、主に金沢市医師会小児科理事（辻隆範・山下陽子・加畑寿明）が役員を務め、金沢市における小児科関連事業について金沢市医師会に相談があった際の諮問機関としての役割を果たしています。また、そのほか年に1回の総会を行い、金沢市医師会の小児科関連事業についての報告をし、同日に学術講演会を開催しています。以下に令和7年度の活動報告を記します。（加畑 寿明）

2) 児童・生徒健診委員会

7. 6. 30 金沢市児童生徒結核検診読影会

7. 9. 19 学校医運営、児童・生徒健診合同委員会

・市立中学2年生血液検査

10～12月 検査実施

○地域医療部

1) 時間外急病診療運営委員会 (加畑)

7. 9. 5 委員会

7. 9. 26 年末年始の当番医・出向医に関する打ち合わせ

8. 3. 13 耳鼻咽喉科当番医打ち合わせ

(1) 休日当番医業務執行

内科当番医の拡充 (6-10月: 3医院→4医院)

内科当番医の拡充 (年末年始: 4医院→5医院)

小児科当番医の一部センター化 (毎月最終日曜日)

金沢マラソン日の当番医増設 (小、眼、耳) の廃止

(2) 金沢広域急病センター出向調整業務執行

小児科1日平均 11.5人 計 4,194人 (365日)

(3) 休日当番医受診者人数、終了時刻等のアンケートの実施

(4) 旧盆中の診療状況調査

(5) 年末年始の診療状況調査

○保健事業部

1) 母子・乳幼児保健委員会 (加畑・山下)

(1) 乳幼児健診・予防接種等の研修会

開催なし。

(2) 保育所看護師保育士研修会

・6月～10月 全5回 Zoom開催

午後7時15分～9時 (場所) 金沢健康プラザ大手町東館4階 大研修室

第1回(6/5木) 横井 透 先生 「保育所における子どもの健康管理」

第2回(7/3木) 藤澤 裕子 先生 「園医による健診～健診の流れと連携～」

第3回(8/7木) 山下 陽子 先生 「子どものアレルギーについて～食物アレルギー編～」

第4回(9/4木) 辻 隆範 先生 「気になるお子さんについて」

第5回(10/2木) 三輪 孝次 先生 「子どもの困った行動の背景に目を向けてみる」

(3) 保育所・認定こども園・幼稚園の職員および嘱託医研修会

(令和7年度: 金沢市歯科医師会当番)

日時 令和7年11月27日(木) 午後7時30分～9時

ハイブリッド形式 ZOOM併用

会場 石川県歯科医師会館

演題 「口腔から免疫を育む: 妊娠期・乳児期からの小児アレルギー予防」

演者 久保 良美 先生

対象 保育所・認定こども園・幼稚園の職員および嘱託医

(4) 令和8年度金沢市への予算要望と回答

(5) 乳児期定期予防接種啓発ポスターの改訂

加南小児科医会

南加賀の小児科医と小松市民病院と加賀市医療センターの小児科医が地域連携を保つために毎月例会を開催して対面で集まっています。コロナの期間は会場の関係で回数は減っていましたが、現在はもう復活しています。ON LINE にすれば、自宅にいても参加しやすくとても便利なのですが、いろんな意見を聞くにはやはり対面の方がいいですね。そのうちに変わるかもしれませんが、できる間はこの形を続けたいと思います。

令和7年度の行事を列記します。

(山上 正彦)

- 4/24 薬剤情報提供 シルガード9
症例提示 右外閉鎖筋化膿性筋炎 6歳女児 正司 政尚 先生
- 5/22 薬剤情報提供 ヌーカラ レルベア
症例提示 ワクチンでカバーされていない肺炎球菌の菌血症の1例 正司 政尚 先生
- 6/26 薬剤情報提供 ブリィビアクト
症例提示 日常診療での股関節エコー検査の取り組み
山上小児科クリニック 寺本 了太 先生
- 8/28 薬剤情報提供 メラトベル
症例提示 胸水の乳児の2例 正司 政尚 先生
- 9/25 薬剤情報提供 アブリスボ
症例提示 streptococcus gallolytics による新生児細菌性髄膜炎の1例 正司 政尚 先生
- 10/23 薬剤情報提供 漢方薬の使い方
急病センターご紹介例のふりかえり (6月から8月まで)
- 11/27 薬剤情報提供 ゴフルーザ
急病センターからのご紹介例のふりかえり その2
- 2/5 加南小児科医会新年会
- 2/26 薬剤情報提供 ネフィー
症例提示 急激な経過を辿った脳腫瘍の3歳男児例 正司 政尚 先生
- 3/26 薬剤情報提供 ワイキャンズ
症例提示 川崎病に急性痙攣重積型脳症をきたした1才女児例 正司 政尚 先生

《寄稿》

小児アレルギーのミカタ

城北病院小児科 武石 大輔

金沢市にある城北病院で主にアレルギー診療を担当しています、武石大輔と申します。

私は、2005年に城北病院で初期研修を開始し、3年目の後半から小児科医として働き始めました。途中、石川県立中央病院で4か月間研修させていただき、さらに国立病院機構相模原病院で半年、東京慈恵会医科大学第三病院で半年間のアレルギー研修を経て、2011年より城北病院でアレルギー診療を行っています。

みなさんも実感していると思いますが、食物アレルギーのお子さんは年々増加しています。花粉症をもっている方で、果物や野菜を口にしたときに口腔・咽頭の違和感が出現する花粉-食物アレルギー症候群（PFAS；Pollen Food Allergy Syndrome）という新しい概念が提唱されたり、卵（特に卵黄）を摂取した後、数時間経過してから大量に嘔吐する、食物蛋白誘発胃腸炎症候群（FPIES；Food Protein Induced Enterocolitis Syndrome）の患者さんも増えています。当院では外来・入院で経口食物負荷試験を行っています。FPIESのお子さんは、摂取してから症状が出るまでの時間が2時間以上かかることも多いため、基本的には入院で負荷試験を行っています。治療としては、最終的には十分量を食べても症状が出ないようになることを目標に、原因食物を少しずつ摂取して体に慣らす、経口免疫療法も行っています。食物は薬と違って一般的に容易に入手できるため、全国でも様々な医療機関で行われています。ただ、統一されたプロトコルはまだなく、ガイドラインではリスクもあるためまだ一般的に推奨されていませんが、1人でも多くのお子さんが、制限なく食生活を送れるように、安全には十分注意しながら、オーダーメイドで実施しています。

さらに近年は、大人の食物アレルギーも増えてきています。また、典型的な食物アレルギーの臨床病型として、原因食物を摂取してから約2時間以内に蕁麻疹や咳・喘鳴、嘔吐などの症状がみられる即時型が多いですが、原因食物、機序、発症までの時間が全く異なる特殊型も多く報告されています。マダニに噛まれたことで、その唾液中に含まれる α -Galに感作され、その後牛肉や豚肉などを食べることで症状を呈する α -Galアレルギーや、クラゲに刺されたことで納豆アレルギーを発症するPGAアレルギー、羽毛に感作されることで卵に反応するようになるbird-egg症候群、ネコに感作されることで豚肉で症状が出るpork-cat症候群など、多彩なアレルギーの病型が報告されており、奥が深いと感じております。

食物アレルギーの診断は、「原因食物を摂取した後にアレルギー症状が出現したというエピソード」と、「血液検査や皮膚テストなどの検査での反応陽性」の2つが合わさって行います。これだけ食物アレルギーのことが一般的に認知されるようになってきて、診

断の原則の理解が不十分な点が様々な場面でみられることを経験します。日常診療とともに、啓蒙活動にも力を入れていかないといけないと感じています。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

祖父と小児科と感染症

松田小児科・消化器 IBD クリニック 武田 万里子

今回寄稿のお話をいただき、自分の振り返りの為に小児科医になるきっかけになった祖父のことを書いてみようと思います。

祖父 松田純也の小児科病院で、私は医学生時代に休日に小児科の受付の手伝いをしていました。祖父の診察する姿をたびたび見ていて患者さんと真剣に向き合う祖父の姿に感銘を受け、私も小児科医になろうと決めました。

祖父 松田純也は柔道家の父のもとに生まれ、幼いころに姉と妹を病気で亡くす経験をして医師を志したそうです。四高から旧制金沢医科大学に進学し、昭和 20 年に卒業し国立金沢病院（現金沢医療センター）で小児科医として働き始めました。

そのころ腹痛と下痢、血便を主な症状とする赤痢が蔓延し、重症化して疫痢になる子供が多く、命を落とすこともあったそうです。実は私の母（純也の長女）が 1 歳すぎに疫痢になり生死をさまよい今でも大腿に皮下点滴、足首に輸血の為に静脈切開の跡が残っています。死を覚悟するくらいの状態の中、ギリギリで救命できたと聞いています。

祖父が 70 才を過ぎたころ北國新聞の地鳴りに「昨今の O157 の流行とその治療に関し、種々の発表を見分するにつれ、『疫痢』の原因探求と治療に昼夜をわかつて献身した 50 年前を思い出して血が騒ぎ出すのを禁じ得ません」と投稿していました。

その当時は今と比べれば、針や点滴、検査など医療設備が不十分で疫痢の病態もあまりわかってない状況で治療がどれだけ大変だったか想像もできませんが相当大変だったと思います。平成 11 年私が医学部 6 年生の時に 78 歳で祖父が亡くなったのですが、疫痢の話など医学についての話がほとんどできないままだったのが心残りです。

祖父の死後、感染症は公衆衛生、予防接種の発展とともに様相を変えました。ですが令和の現在でも小児科医は常に感染症との戦いで外来で感染症を診ない日はありません。

この数年でも休校にまで発展した COVID19、排除状態までいった麻疹の流行、毎年流行を繰り返すインフルエンザ、様相を変え続ける手足口病等々。これからも小児科医は感染症との戦いが続くことになりそうです。

優秀でもなく勤勉でもない私ですが、祖父の遺志を受け継ぎ日々患者さんとこれからも変化を続ける感染症と向き合っていきたいと思います。

令和7年度 石川県小児科医会 会計収支決算に関する件

(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

収入総額	4,782,228円
支出総額	1,897,477円
差引繰越額	2,884,751円

収入の部

(単位：円)

科目	予算額 [A]	決算額 [B]	増減額 [B-A]	摘要
1 会費	912,000	892,000	△ 20,000	会費 開業会員 (15,000円 × 42名) 勤務会員 (5,000円 × 43名) 自宅会員等 (3,000円 × 14名) (計 99名) 前年度会費 勤務会員 (5,000円 1名) (計 1名)
2 負担金	575,000	630,000	55,000	春季例会懇親会費 (10,000円 × 18人) 創立50周年記念式祝賀会費 (15,000円 × 30人)
3 参加費	6,000	0	△ 6,000	例会受講料 (非会員) (3,000円 × 0人)
4 広告料	70,000	70,000	0	会報広告 (10,000円 × 7社)
5 雑収入	949	55,038	54,089	預金利息、創立50周年記念式祝儀
6 支援・義援金	0	0	0	
7 前期繰越金	3,135,190	3,135,190	0	
計	4,699,139	4,782,228	83,089	

支出の部

(単位：円)

科目	予算額 [A]	決算額 [B]	増減額 [B-A]	摘要
1 会議費	1,348,940	1,395,666	46,726	総務会 (5/13、11/4) ※WEB開催 役員会 (5/20、7/8、11/11) ※WEB開催 石川県医師会館インターネット使用料 5,000円 総会・春季例会、懇親会 (6月1日) ホテル金沢使用料 321,360円 講師謝金 (3名) 100,233円 創立50周年記念式典、秋季例会、祝賀会 (11月16日) ホテル金沢使用料 639,138円 講師等謝金 (3名) 127,959円 講師交通費 100,550円 超勤代 67,648円 Zoomプロライセンス代 33,778円
2 旅費	102,000	46,260	△ 55,740	日本小児科医会中部ブロック連絡協議会 (開催地：長野県) 24,700円 中部・近畿ブロック合同協議会 (開催地：愛知県) 21,560円
3 分担金	10,000	10,000		日本小児科医会中部ブロック連絡協議会 分担金
4 広報費	165,000	152,265	△ 12,735	会報第19号 能登印刷 115,500円 会報第19号 郵送料 36,765円
5 慶弔費	20,000	0	△ 20,000	
6 通信運搬費	40,000	40,530	530	郵送料、はがき代
7 需用費	70,000	52,756	△ 17,244	コピー代 21,956円 創立50周年記念式典案内印刷代 30,800円
8 寄附金	0	0	0	
9 事務委託費	250,000	200,000	△ 50,000	石川県医師会
10 支援・義援金	0	0		絵本、おもちゃ等
11 予備費	2,693,199	0	△ 2,693,199	支援金不足分の補填、第72回日本小児保健協会学術集会への賛助金
計	4,699,139	1,897,477	△ 2,801,662	

会計報告

令和8年4月18日

会計 田丸 陽一



監 査 報 告

令和7年度歳入・歳出に係る収支計算書について、
令和8年4月30日に監査を致しましたところ、帳簿
その他関係書類等が明確、適切に記載・整理され、
且つ正確でありましたことを報告致します。

監 事

中谷 茂和



石川県小児科医会

会長 久保 実 殿

令和 8 年度 石川県小児科医会 会計収支予算に関する件

(令和 8 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日)

予算総額 4,317,751円

収入の部

(単位：円)

科目	予算額 [A]	前年度予算額 [B]	増減額 [A-B]	摘要
1 会費	912,000	912,000	0	会費 開業会員 (15,000円 × 42 名) 勤務会員 (5,000円 × 46 名) 自宅会員等 (3,000円 × 14 名) (計 102 名) 前年度会費 勤務会員 (5,000円 × 2 名) (計 2 名)
2 負担金	440,000	575,000	△ 135,000	中部ブロック連絡協議会 (12,000円 × 30 名) 代議員分担金 (10,000円 × 8 名)
3 参加費	6,000	6,000	0	例会受講料 (非会員) (3,000円 × 2 名)
4 広告料	70,000	70,000	0	会報広告 (10,000円 × 7 社)
5 雑収入	5,000	949	4,051	預金利息
6 支援・義援金	0	0	0	
7 前期繰越金	2,884,751	3,135,190	△ 250,439	
計	4,317,751	4,699,139	△ 381,388	

支出の部

(単位：円)

科目	予算額 [A]	前年度予算額 [B]	増減額 [A-B]	摘要
1 会議費	885,778	1,348,940	△ 463,162	総会・春季例会 (6 月 28 日) 会場利用料 (石川県医師会館) 48,000円 お茶代 3,000円 講師謝金 (1 名) 30,000円 中部ブロック連絡協議会 (8 月 22 日) 会場使用料 (ホテル金沢) 560,000円 第35回石川地方会 (9 月 13 日) 講師謝金 (1 名) 50,000円 秋季例会 (11 月 1 日) 会場利用料 (石川県医師会館) 48,000円 お茶代 3,000円 講師謝金 100,000円 旅費、宿泊費 10,000円 Zoomプロライセンス代 33,778円
2 旅費	80,000	102,000	△ 22,000	日本小児科医会代議員会 (定時社員総会) (開催地：新潟県) 20,000円 日本小児科医会地域小児救急全国協議会 (開催地：未定) 30,000円 日本小児科医会社会保険全国委員会 (開催地：東京都) 30,000円
3 分担金	10,000	10,000	0	日本小児科医会中部地区ブロック連絡協議会 分担金
4 広報費	167,000	165,000	2,000	会報第20号 印刷製本費 130,000円 会報第20号 郵送料 37,000円
5 慶弔費	20,000	20,000	0	
6 通信運搬費	40,000	40,000	0	郵送料、切手代
7 需用費	70,000	70,000	0	封筒代、コピー代、事務用品等
8 寄附金	0	0	0	
9 事務委託費	250,000	250,000	0	
10 支援・義援金	0	0	0	
11 予備費	2,794,973	2,693,199	101,774	
計	4,317,751	4,699,139	△ 381,388	

令和 8 年度事業計画に関する件

石川県小児科医会 主な会議・研修会等開催予定

4 月	勉強会（月一会）（4/16）	10 月	勉強会（月一会）（10/15）
5 月	総務会（5/12） 役員会（5/19） 勉強会（月一会）（5/21）	11 月	秋季例会（11/ 1） 総務会（11/10） 役員会（11/17） 勉強会（月一会）（11/19）
6 月	総会・春季例会（6/28） 勉強会（月一会）（6/18）	12 月	
7 月	役員会（7/14） 勉強会（月一会）（7/16）	1 月	総務会（1/5） 役員会（1/12） 勉強会（月一会）（1/21）
8 月	勉強会（月一会）（8/20）	2 月	勉強会（月一会）（2/18）
9 月	総務会（9/1） 役員会（9/8） 勉強会（月一会）（9/17）	3 月	総務会（3/2） 役員会（3/9） 勉強会（月一会）（3/18）

※総務会（奇数月第 1 火曜日）、役員会（奇数月第 2 火曜日）、勉強会（毎月第 3 木曜日）

1 令和 8 年度総会

日 時 6 月 28 日（日） 午後 1 時 30 分

場 所 石川県医師会館 4 階研修室

2 役員会

日 程 上記「石川県小児科医会 主な会議・研修会等開催予定」参照

時 間 午後 7 時 30 分～午後 8 時 30 分

開催方法 Web 開催

3 総務会

日 程 上記「石川県小児科医会 主な会議・研修会等開催予定」参照

時 間 午後 7 時 30 分～午後 8 時 30 分

開催方法 Web 開催

4 研修会

（1）春季例会

日 時 6月28日(日) 午後2時30分～午後4時00分(懇親会 なし)
場 所 石川県医師会館4階研修室
講 演 「小児の自己炎症性疾患～特にPFAPAを中心に～」
金沢大学小児科教授 和田 泰三 先生

(2) 秋季例会

日 時 11月1日(日) 午後2時～午後4時(懇親会 なし)
場 所 石川県医師会館4階研修室
講 演 「子どもの脳を傷つけない子育て
～マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ～」
福井大学子どものこころの発達研究センター マルトリ予防学研究部門特命教授
友田 明美 先生

(3) 勉強会(月一会)

日 程 「石川県小児科医会 主な会議・研修会等開催予定」参照(12月休会)
時 間 午後7時30分～午後8時30分(午後7時から入室談話可能)
開催方法 Web開催

(4) 日本小児科学会第35回石川地方会当番会長

日 時 9月13日(日) 午後1時～午後5時
場 所 金沢大学附属病院 宝ホール
講 演 「唇裂・口蓋裂治療の集学的アプローチ～専門センターの役割～」
金沢医科大学形成外科准教授 岸邊 美幸 先生

5 本会後援

- (1) 「CAP公開ワークショップ」 CAPいしかわ
- (2) 「親と子のリレーションシップ ほくりく 2026 いしかわ」

6 日本小児科医会関連会議等(出席予定者敬称略)

- (1) 代議員会(定時社員総会)(総会フォーラム同時開催) 朱鷺メッセ(新潟)
(山上) 6月6日(土)
- (2) 第37回日本小児科医会総会フォーラム in 新潟
(久保他) 6月6日(土)、7日(日)
- (3) 第34回中部地区ブロック連絡協議会 ホテル金沢(石川県)
(久保、藤澤、丸岡) 8月22日(土)
- (4) 中部・近畿ブロック合同協議会 詳細未定
- (5) 日本小児科医会第15回地域小児救急全国協議会(救急部会) 詳細未定
- (6) 日本小児科医会社会保険全国委員会 東京都(社会保険部会) 令和9年2月頃開催予定

7 石川県小児科医会会報第20号(創立50周年記念号) 8月頃発刊予定

8 各部会

(1) 総務部会

- ①総務会の開催 → 「3 総務会」参照
- ②総会の開催 → 「1 総会」参照
- ③勉強会（月一会）の開催 → 「4 研修会」（3）参照
- ④日本小児科医会代議員会（定時社員総会）出席
→ 「6 日本小児科医会関連会議等」（1）参照
- ⑤第33回日本小児科医会中部地区ブロック連絡協議会への参加
→ 「6 日本小児科医会関連会議等」（3）参照
- ⑥医会会員およびメーリングリストの管理
- ⑦日本小児科学会第35回石川地方会の開催

(2) 財務部会

- ①令和7年度決算報告の確認
- ②令和8年度予算案の作成
- ③財務管理

(3) 学術部会

- ①春秋の例会における講演会の開催 → 「4 研修会」（1）、（2）参照
- ②勉強会（月一会）の開催（司会は総務部会担当委員で輪番） → 「4 研修会」（3）参照
- ③会員研修会の開催
- ④日本小児科医会総会フォーラム、生涯研修セミナーへの参加・協力
- ⑤日本小児科学会北陸地方会および石川地方会への参加・協力
- ⑥日本外来小児科学会その他の学会の参加・協力

(4) 学校医部会

- ①学校医および幼稚園医・保育所嘱託医活動の推進
- ②第17回日本小児科医会乳幼児学校保健研修会
- ③日本医師会学校保健講習会等への参加
- ④石川県医師会学校医部との協力
 - 1) 第66回石川県医師会学校医研究発表会
 - 2) 第24回保育所嘱託医・幼稚園医等研修会
 - 3) 第58回若年者心疾患・生活習慣病対策協議会
 - 4) 都道府県医師会学校担当理事連絡協議会

(5) 救急部会

- ①第16回日本小児科医会地域小児救急全国協議会への参加
→ 「6 日本小児科医会関連会議等」（5）参照
- ②小児救急研修会の開催
- ③小児救急電話相談（#8000）事業の推進
- ④家庭看護力醸成の啓発活動推進
- ⑤災害時医療対策の研究

(6) 感染症部会

- ①感染症サーベイランス登録数増加に向けた取り組みを行う
- ②全数把握疾患の登録の徹底の注意喚起
- ③感染症情報登録2025-2026のサマリーを作成し、感染症の動向について情報提供を行う

- ④新興感染症における感染対策について取り組む
- ⑤麻疹・風疹等の流行阻止に向けた活動の継続
- ⑥ワクチンに関する正しい知識の啓発と接種勧奨する（ワクチン部会と協力）
- ⑦保育園・幼稚園の園医、学校医間の情報共有（アウトブレイクの早期探知）

（７）ワクチン部会

- ①風疹抗体価低値の母親に対する風疹ワクチン接種の情報提供活動
- ②ムンプスワクチン定期化に向けた調査等への協力
- ③HPV ワクチン接種率向上に向けた取り組み
- ④ワクチンの副反応調査の対象施設の依頼、およびその協力の継続
- ⑤MR ワクチン等供給に関する情報共有
- ⑥RS ウィルス母子免疫ワクチンに関する情報収集及び情報共有

（８）社会保険部会

- ①日本小児科医会社会保険委員会へ出席する。
- ②社会保険全国委員会の内容を役員会にて報告する。
- ③診療報酬に関する各医療機関からの相談に応じる。
- ④小児科関連の診療報酬に関する調査研究を行う。
- ⑤小児科の診療所における医療経営に関する研究を行う。

（９）広報部会

- ①石川県小児科医会会報「令和 7 年度第 20 号（創立 50 周年記念号）」の編集・発行
→「7 石川県小児科医会会報第 20 号」参照
- ②各種啓発事業の広報
- ③ポスター・リーフレット等の作成
- ④石川県小児科医会への入会勧奨
- ⑤HP 内容の更新
- ⑥石川県小児科医会会報「令和 8 年度第 21 号」の準備

（10）勤務医部会

- ①勤務医支援：特に女性医師や研修医を含めた若手医師の支援を中心に活動
- ②医師の働き方改革の推進および対応
- ③勤務医の石川県小児科医会への加入推進（できれば日本小児科医会へも）
- ④全国医師会勤務医部会連絡協議会への参加

（11）子育て支援部会

- ①子育て支援メッセージしかわへの医師派遣
- ②CAP 公開ワークの後援・広報
- ③ふらっとマチナカ保健室事業の支援・広報活動
- ④日本小児科医会「子どもの心相談医」カウンセリング実習開催

2026 年 11 月 15 日予定

（12）障害児部会

- ①以下の会議・事業等への参加継続
 - ・医療的ケア児支援連絡会（WEB）
 - ・小児等在宅医療連携推進部会 医師部門会（WEB）
 - ・金沢市教育支援委員会（年 6 回）
 - ・石川県医療的ケア児等支援者養成研修講演

- ・金沢市保育施設等における医療的ケア実施検討委員会
- ・金沢市医療的ケア実施検討委員会
- ・金沢市統合保育指導委員会（年 3 回）
- ・金沢市幼児相談室専門相談員（年 10 回）
- ・金沢市療育手帳判定（金沢市児童相談所）（月 2 回 年 24 回）
- ・発達障害地域関係者連絡会議（南加賀保健福祉センター）
- ・内灘町幼児発達相談 相談員（年 18 回）
- ・明和特別支援学校医事相談 相談員（年 6 回）
- ・北陸大学医療保健学部 発達障害、障害児講義
- ・石川県小児等在宅医療推進部会・いしかわ医療的ケア児支援センターこのこの合同研修会
- ・医療的ケア指導アドバイザー事業
- ・石川県発達障害者支援体制推進会議
- ・金沢市教育プラザ 専門相談員
- ・金沢市泉野福祉健康センター幼児発達相談（年 12 回）
- ・金沢市生涯区分認定審査会（年 12 回）
- ・金沢市保育所看護師保育士研修会
- ・金沢市保育施設の看護師医療的ケア研修

9 その他

石川県小児科医会会則

1 名 称

本会は石川県小児科医会と称する。

2 目 的

本会は会員相互の親睦、小児臨床医学の研鑽および小児科医業の向上を目的とする。

3 会 員

イ) 会員は原則として石川県内に在住し、小児科医療に従事する医師をもって組織する。

ロ) 会員は次に掲げる事由によって会員の資格を失うものとする。

(1) 退会または死亡

(2) 会費の納入を怠り、督促を受けた後もなおも納入しない場合 ※1

(3) 除名 ※2

※1 3年間以上の未納入者が督促状を送付後1か月以内に会費を納入しない場合、自然退会とする。

※2 本会の会則に違反したとき、又は本会の名誉を傷つける行為をしたとき、役員会の審議を経て除名することができる。

4 事 業

イ) 総会を年1回以上開催する。

5 運 営

イ) 本会を円滑に運営するため、次の役員を総会で選出する。任期は2年とするが、再任を妨げない。

会 長 1 名

副会長 2 名

理 事 若干名

会 計 1 名

監 事 1 名

ロ) 会長は、本会を代表し会務を総理する。

- ハ) 副会長は会長を補佐する。
- ニ) 理事は、庶務を担当する。
- ホ) 会計は、経理を担当する。
- ヘ) 監事は、経理及び庶務を監査する。
- ト) 本会に顧問、および名誉会員を置くことができる。顧問、および名誉会員は、会長が推薦し、総会の承認を経るものとする。

6 会 計

- イ) 年会費は、開業会員は15,000円とする。
勤務会員は5,000円とする。
自宅会員、その他は3,000円とする。
- ロ) 懇親会費は別に徴収する。
- ハ) 会計年度は4月1日から翌年の3月31日までとする。
- ニ) 会計事務は羽咋郡市医師会事務局に置く。

7 雑 則

- イ) 会則の変更は総会の承認を経るものとする。
- ロ) 事務所は羽咋市中央町キ6番地4 羽咋郡市医師会に置く。

昭和47年	5月	5日	設立
昭和54年	2月	15日	改正
昭和56年	4月	18日	改正
昭和59年	4月	21日	改正
昭和59年	10月	28日	改正
平成13年	6月	24日	改正
平成18年	6月	25日	改正
平成18年	11月	12日	改正
平成27年	3月	29日	改正
平成29年	4月	23日	改正
平成30年	6月	17日	改正
令和 3年	6月	20日	改正
令和 6年	6月	2日	改正
令和 8年	6月	28日	改正

令和8年度 石川県小児科医会役員分掌

【会 長】	久保 実	
【副会長】	藤澤 裕子	丸岡 達也
【会 計】	田丸 陽一	
【監 事】	中谷 茂和	
【顧 問】	斉藤 建二	渡部 礼二
【日本小児科医会 代議員】	山上 正彦	(日本小児科医会 予備代議員 丸岡 達也)

	総括	主担当	副担当	委員
《総 務》	久保 実	藤澤 裕子	丸岡 達也	山上 正彦 加畑 寿明 田丸 陽一 辻 隆範 太田 和秀
《財 務》	藤澤 裕子	田丸 陽一	辻 隆範	水野 和徳 西田 直徳
《学 術》	藤澤 裕子	加畑 寿明	中村 利美	谷内江 昭宏 太田 和秀 和田 泰三 伊川 泰広 上野 康尚 伊藤 順庸 田丸 陽一 辻 隆範
《学校医》	久保 実	山下 陽子	加畑 寿明	山上 正彦 太田 和秀 轟 千栄子 池崎 綾子 竹谷 良平 辻 隆範
《救 急》	丸岡 達也	太田 邦雄	田丸 陽一	山上 正彦 太田 和秀 上野 康尚 伊藤 順庸 越田 理恵 金田 尚 近藤 裕成 池崎 綾子 岡本 浩之

	総括	主担当	副担当	委員	
《感染症》	丸岡 達也	太田 和秀	濱 猛浩	水野 和徳 越田 理恵 山下 陽子 伊川 泰広 山上 正彦 西田 直徳	渡部 礼二 田丸 陽一 浅井 暁 池崎 綾子 岡本 浩之 田崎 優子
《ワクチン》	丸岡 達也	水野 和徳	濱 猛浩	田丸 陽一 加畑 寿明 中村 利美 山上 正彦 西田 直徳	山下 陽子 渡部 礼二 岡本 浩之 池崎 綾子
《社 保》	丸岡 達也	上野 康尚	高田 充彦	太田 和秀 加畑 寿明 中村 利美 西田 直徳	水野 和徳 岡本 浩之 山上 正彦
《広 報》	藤澤 裕子	中村 利美	田丸 陽一	加畑 寿明 水野 和徳	辻 隆範 西田 直徳
《勤務医》	久保 実	太田 和秀	伊藤 順庸	上野 康尚 岡田 直樹 黒田 文人	太田 邦雄 金田 尚
《子育て支援》	藤澤 裕子	轟 千栄子	越田 理恵	上野 康尚 中村 利美 上野 良樹	伊藤 順庸 辻 隆範 池崎 綾子

	総括	主担当	副担当	委員
《障害児》	丸岡 達也	辻 隆範	上野 康尚	丸箸 圭子 林 律子 横井 透 井幕 充彦 関 秀俊

≪編集後記≫

記念すべき第20号の巻頭言を越田理恵先生からいただきました。「上等なお節介心」こそ、日々の診療に追われている我々医師が忘れないようにしたい「心」と思います。

令和7年度春季例会特別講演の内容について、和田泰三先生、伊藤順庸先生、岡島道子先生からご寄稿いただきました。拡大新生児マスキング事業によって、より多くの命が後遺症なく救われることを願っています。

50周年祝賀会での久保実会長の式辞を掲載しました。コロナ禍で会員がすっかり忘れていた創立50周年を久保会長の鶴の一声で開催することになり、いろいろな困難を乗り越えて準備が整い、格調高く成功裡に終えることが出来たのも久保会長の指導力の賜物であります。会長は石川県立中央病院の小児科部長・副院長という重責を長年担われ、令和2年から石川県小児科医会会長に就任されました。勤務医でありながら開業医の立場を十分に理解され、私たちを導いていただき、たいへん感謝しています。式辞では石川県小児科医会の活動として重要な3つの活動を挙げられました。一つ目は夜間休日急病診療への貢献、二つ目は感染症登録事業、三つめはキンダースから引き継いだ勉強会「月一会」の活動です。継続は力なりのとおり、これからも地道な活動を続けていくことが私たちの使命であることを肝に銘じました。

50周年を迎えた石川県小児科医会の歩みと題して斉藤健二先生から原稿を頂戴しました。石川県小児科医会の黎明期から現在に至るまでの歩みを詳細に教えていただきました。多くの先達に感謝し、今後もバトンを受け継ぎ次世代にしっかりと渡していけるように精進していきたいと思います。石川県の子どもたちに幸せな未来を築けるように心を新たにしました次第です。

日本小児科医会会長 伊藤隆一先生のお祝辞を掲載しました。日本小児科医会の活動も活性化しており、ご多忙の中、石川県小児科医会の創立記念式典にご出席賜りありがとうございます。ございました。

令和7年度秋季例会の特別講演を賜った岸部峻先生から講演内容の要旨をいただきました。多忙な小児科外来においてコモンな症状の陰に潜むアンコモンな疾患を早期に発見するための秘訣を教えてくださいました。創立50周年を記念する有意義な講演となりました。

藤澤裕子先生から、「子どもの心相談医」カウンセリング実習（金沢）の開催報告がありました。大雪の中、無事に開催できましたこと、運営に携わった先生方のご苦勞が目に見えます。

加南、能登、金沢の三つの地区の小児科医会から昨年度の活動報告がありました。能登地区は震災の影響がまだ残っているようです。ご無理なさらないように、地域のために頑張っていたいただきたいと思います。

城北病院小児科の武石大輔 先生からご寄稿がありました。食物アレルギーが子どもも大人も増えていること、いろいろな病型が存在すること等、その奥の深さを教えていただきました。実地臨床では、まず食物アレルギーではないかと疑うことが大切だと気づかされました。益々のご活躍を期待しています。

「松田小児科・消化器 IBD クリニック」の武田万里子 先生から、ご祖父様の診察するお姿を見て小児科医を志されたとのこと、感銘を受けました。

今号は 50 周年創立記念号ということで、読み応えのあるものになりました。いろいろな機会に他科の先生方から小児科医の結束の強さを賞賛されます。そのたびに、石川県の小児科医でよかったなとつくづく思うこの頃です。

(広報委員 加畑 寿明)

編集委員

加畑 寿明	田丸 陽一	辻 隆範
中村 利美	西田 直徳	藤澤 裕子
水野 和徳		

石川県小児科医会会報

令和 7 年度 第 20 号 創立 50 周年記念誌

令和 8 年 8 月 20 日発行

発行 石川県小児科医会

〒925-0052 石川県羽咋市中央町キ 6 番地 4

(一般社団法人羽咋郡市医師会内)

石川県小児科医会事務局

電話 0767-22-6929 FAX 0767-22-6932

代表メールアドレス：

ipad@ishikawa.med.or.jp

石川県小児科医会変更届

平素は石川県小児科医会にご協力賜りましてありがとうございます。

ご住所、勤務先等の変更がございましたら、お届けくださいますようお願いいたします。

石川県小児科医会 事務局 **FAX : 0767-22-6932**

届出日 西暦 年 月 日

氏名	(ふりがな)					
生年月日	西暦		年		月 日 (歳)	
会員区分 (該当項目に○)	1. 開業医 2. 勤務医 3. 自宅会員					
勤務先	(ふりがな)					
	(ふりがな) 所在地 〒 -					
	TEL				FAX	
自宅	(ふりがな)					
	住所 〒 -					
	TEL				FAX	
文書送付先 (該当項目に○)	1. 勤務先 2. 自宅					
メールアドレス	E-mail : _____ @ _____ _____ 医会メーリングリストへの参加 可 ・ 否					
日本小児科医会 日本小児科医連盟	日本小児科医会 (該当項目に○)	() 会員 () 非会員	日本小児科医連盟 (該当項目に○)	() 会員 () 非会員		
備考						

切り取り線



GOOD
DESIGN



ワクチン・トキシイド混合製剤
生物学的製剤基準

生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品^(注)

沈降精製百日せきジフテリア破傷風不活化ポリオヘモフィルスb型混合ワクチン

クイントバック® 水性懸濁注射用

Quintovac Aqueous Suspension Injection (注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

薬価基準未収載

健康にアイデアを
meiji

健康にアイデアを
kmb

効能・効果、用法・用量、接種不適当者（予防接種を受けることが適当でない者）を含む注意事項等情報等については、電子化された製品添付文書をご参照ください。

製造販売元

KMバイオロジクス株式会社
熊本市北区大窪一丁目6番1号

販売元

Meiji Seika ファルマ株式会社
東京都中央区京橋2-4-16

<文献請求先及び問い合わせ先>

Meiji Seika ファルマ株式会社 ぐすり相談室
〒104-8002 東京都中央区京橋2-4-16
フリーダイヤル(0120)093-396
電話(03)3273-3539、FAX(03)3272-2438

2025年1月作成

**最先端のサイエンスを駆使して、
世界中の人々の生命を救い、
生活を改善すること。**

このパーパスの実現に向けて、
MSDは全力で取り組んでいます。





アトピー性皮膚炎治療剤
尋常性乾癬治療剤
タピナロフクリーム

薬価基準収載

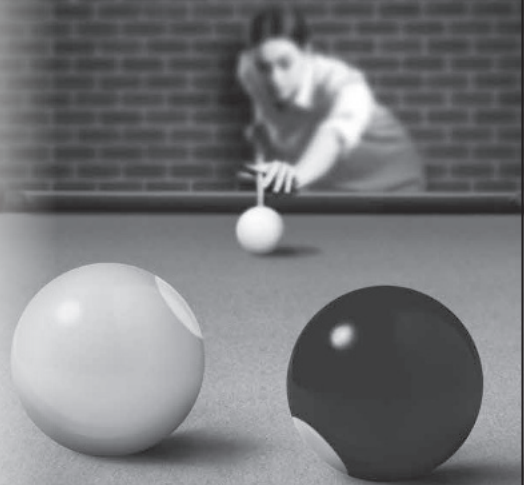
ブイタマー[®]クリーム1%

VTAMA[®] cream

処方箋医薬品^{注)}

注) 注意－医師等の処方箋により使用すること

「効能又は効果、用法及び用量、
禁忌を含む注意事項等情報」等は、
電子化された製品添付文書をご参照ください。



製造販売元(輸入)

塩野義製薬株式会社

SHIONOGI 大阪市中央区道修町3丁目1番8号



販売元

鳥居薬品株式会社

SHIONOGI Group Company

東京都中央区日本橋本町3-4-1

文献請求先及び問い合わせ先 | 鳥居薬品株式会社 お客様相談室 TEL 0120-316-834 FAX 0120-797-335

VTM-KO-0002(V01)
審174436
2025年12月作成



maruho



生物由来製品、新薬、処方箋医薬品^{*}

ヒト化抗ヒトIL-31受容体Aモノクローナル抗体

薬価基準収載

ミチーガ[®] 皮下注用30mgバイアル

Mitchga[®] Vials: ネモリズマブ(遺伝子組換え)注射剤

(一部)最適使用推進ガイドライン対象品目

^{*} 注意-医師等の処方箋により使用すること

製造販売(文献請求先及び問い合わせ先)

maruho マルホ株式会社
大阪市北区中津1-5-22

●効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報等については、電子添文をご参照ください。

2025年5月作成

もっと人のために

わたしたちは、臨床検査薬を通じ、
確かな技術力で社会へ貢献してまいります。

SARSコロナウイルス抗原キット・RSウイルスキット

クイックチェイサー® SARS-CoV-2/RSV

体外診断用医薬品 承認番号 30400EZ00055000

1回の検査で SARS-CoV-2、RS ウイルスを同時検出



RSウイルスキット・ヒトメタニューモウイルスキット

クイックチェイサー® RSV/hMPV

体外診断用医薬品 承認番号 22800EZ00021000

1回の検査で RS ウイルス、ヒトメタニューモウイルスを同時検出



SARSコロナウイルス抗原キット・インフルエンザウイルスキット

クイックチェイサー® SARS-CoV-2/Flu A,B

体外診断用医薬品 承認番号 30300EZ00090000

1回の検査で SARS-CoV-2、A型インフルエンザ、B型インフルエンザを同時検出



インフルエンザウイルスキット

クイックチェイサー® Flu A,B

体外診断用医薬品 承認番号 21600AMZ00062000

1回の検査で A型インフルエンザ、B型インフルエンザを同時検出



株式会社 ミズホメディー 佐賀県鳥栖市藤木町5番地の4

学術担当窓口 お客様専用 月～金(祝日を除く) 9:00～12:00 13:00～17:00

0120-12-4636

新規・承継開業のご相談はフクダ電子におまかせください。



当社は、医院開業支援業務に30年以上の実績があります。その経験と実績をもとに、専門のスタッフが先生のご開業をトータルサポートしています。開業に必要な診療圏調査や事業計画書の作成、レイアウトの提案をはじめ、開業後のサポートに至るまで、ドクターひとりひとりに適したきめ細かな支援をさせて頂くことにより、ドクターの開業ビジョンを具現化していきます。全国に営業所があるという当社の強みを生かして、地域の担当者と連携しながら、全国、どこでも精いっぱいご支援いたします。ぜひ一度ご相談下さい。



TEL113-8483 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03) 3815-2121 (代) <http://www.fukuda.co.jp/>

お客様窓口… ☎ (03) 5802-6600 / 受付時間: 月～金曜日(祝祭日、休日を除く) 9:00～18:00

●医療機器専門メーカー

フクダ電子株式会社



診断技術で、
安心な毎日を。



株式会社 **タウンス**

〒410-2325 静岡県伊豆の国市神島761番1

www.tauns.co.jp

